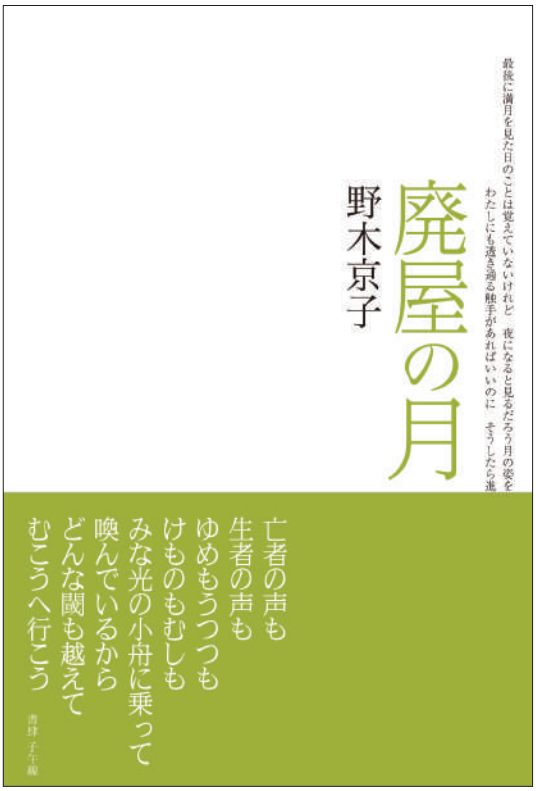
2024年3月下旬配本予定

廃屋の月（はいおくのつき）

野木京子 著

四六判・並製／120頁／定価2,200円+税
ISBN978-4-908568-41-4　C0092　¥2200E



詩を書く意味とは
知らない廃庭か廃屋に入っていくことです
（「廃屋の月」より）

水面に落ち込んだかつての月明かり、今は亡き人が昔飼っていた犬の鳴き声、夢うつつの気水域に立ち現れるさざなみのような声や断片を拾い集めるように書き継がれた32篇。詩人・野木京子、第6詩集。
装幀＝稲川方人

野木京子（のぎ・きょうこ）
詩人。熊本県八代市生まれ。2007年に『ヒムル、割れた野原』（思潮社、2006年）で第57回H氏賞を受賞。その他の詩集に『明るい日』（思潮社、2013年）、『クワカ ケルル』（思潮社、2018年）などがある。

空の河原かどこかで逢ったことのある／小さな子が部屋の隅から出てきて言った／ゆっくりと回転しながら／この世に現れ出たのだから／立ち去るときもきっと／見えない姿のまま／ゆるやかに回転して／戻っていくはず／そのとき真新しい風を頬に浴び／初めての色彩の景色を見るから／楽しみにしているとよいよ／と（「空の河原」より）

目次
汽水域／西日の神様／秋の庭／空の河原／棄てられた声 裏山を越えたところ／心の奥であるような気もする／声が聞こえるほうへ／球根／庭の片隅で／常世の実／十四日月と海／犬も鳥も／翳りの息／花崗岩ステーション／空中映画館／ときには透明のようにも見えひとの面影がうごめいている／どこにもいなくなったときには光のなかにいる／きゅいぎゅい／ピシャッ／家を訪ねる／クル ミの実のなかに橋が／小舟と声／窓辺／樹木も叫びの粒を空へあげる／音無し／廃屋の月／つぶつぶ／世界は薄い氷の上に乗っているのに／水母の日記帳／どこにもない植物園／お山へ行くまでに／じぐざぐ

▶ご注文はツバメ出版流通まで　FAX 03-3721-1922
TEL 03-6715-6121　E-mail info@tsubamebook.com　http://tsubamebook.com

貴店名（番線印） ご担当　様	書肆子午線 新刊	info@shoshi-shigosen.co.jp 返品条件注文扱い　返品了解 ツバメ出版流通：川人
	ご注文数 冊	廃屋の月 ISBN978-4-908568-41-1　C0092 四六判・並製／120頁／定価=本体2,200円+税